

1 東海地方のキリシタン史跡を歩く

尾張地方のキリシタン殉教史跡巡礼

丹羽郡扶桑町の殉教地を歩く

ビスいたしますとのこと、徒歩で回るつもりが、思いがけず自転車での みると料金は一 こそ扶桑町へ、貸自転車ご用意」と書かれているのを発見する。 本隔てて建っている千田ビル一階の自転車屋さんのウインドウに「よう ショッピングタウンイオン側に下りると、ローソンや郵便局と道路を れる尾張北部の扶桑町を訪ねることにした。名鉄電車扶桑駅で下車し、 猛暑が続く夏の一日、 時間単位だが、一 江戸時代初期に多くの殉教者を出したといわ 日乗っても五百円を超えないようにサー 尋ね



山那「小渕薬師堂」 案内地図



熱田社南の処刑地跡の「地蔵堂」

巡礼になり、遠くまで足を延ばすことができた。

ンの霊を弔った場所だと言われている(地図21)。 から十数基の五輪塔などが出てきたらしい。 熱田神宮神領である。 たキリシタンを埋葬した場所であった。「熱田社」のある辺りはかつての 後で調べてみたら、熱田社の真南の田圃の中にある「地蔵堂」が処刑され めの地蔵も見当らず、境内のどのあたりが処刑地なのかは分らなかった。 十七軒九十五名のキリシタンの処刑場ということだが、きれいに整えられ 家もまばらな田圃の中にある。一六六七年(寛文七)検挙、処刑された 量も少なく非常に楽だった。「熱田社」は扶桑町北西の江南市に入った人 に到着。 那小渕薬師寺」に向かった。 た境内にはそれらしい雰囲気もなく、その事を書き記した札や、 まずは遠方からと思い、徒歩では到底無理だと思われる「熱田社」と「山 分かりやすいようにと草井羽黒線をずっと辿っていったが、 地蔵堂を現在地に建て替えたとき、 扶桑駅から自転車で走ること三十分、 地蔵堂は処刑されたキリシタ 古いお堂の土中 慰霊のた 熱田社 交通



扶桑町小渕薬師寺の 「石割不動尊像」

尾北地区で最古の 有銘船形地蔵尊像



宗系の寺で創建は詳らかでないが往古は木曽川の中洲にあった。 は草がぼうぼうと生えた無住の寺であった。案内書によると、ここは臨済 りづらく、迷うことしばし。ようやくたどり着いた薬師寺は小さくて、 街道の土手から下りてゆかなければならないが、民家の間の狭い路地は分 巡見街道を二十分ほど走ると、「山那小渕薬師堂」に到着。薬師寺は巡見 熱田社から木曽川沿い、とはいっても木曽川の流れはほとんど見えない

それは光背が船の形をしているために舟形地蔵とよばれる種類の地蔵で、 供養塔である。小堂に地蔵畑処刑場から移された石地蔵が安置されていた。 治二十九)八月に本堂兼庫裏が一棟建立された。境内祠堂にはキリスト像 り、これは「三つに割られている」と書いてあるが、首の部分を入れると 小さな祠に納められていた。また石割り不動尊と呼ばれる迫害の遺物があ 宝五年丁巳夏吉日」をもつ「舟形地蔵尊」が祀られている。一六六一年~ をかたどったものとされる不動明王「石割不動」と濃尾地方最古の銘文「延 三月現在の地に移された。 濃尾震災で本堂や庫裏は倒壊し、一八九六年(明 六七二年(寛文年間)のキリシタン宗徒弾圧処刑直後に建立された有銘 一六二九年(寛永六)五月の大洪水のため流失し、一七八八年 (天明八)

もなく鎮座していた 四つに割られているように見え、写真で見ていたよりずっと小さな不動尊 舟形地蔵が安置されている祠と、もう一つの祠の狭い隙間に、 (地図23)。 屋根

走り、 ミタル跡ニシテ」とあり、 地 名のササラ塚より手前にやはりキリシタン処刑地である小渕地蔵畑があっ 地蔵畑のあった場所ではないかと思われる。 名尋常小学校長岩井島次郎氏ノ案内ヲ得、 たというが、これも残っていない。 ただ、千田金作の著『切支丹資料』に「山 が処刑場の跡なのか見当もつかないうちに走り抜けてしまった。 のだが、特に目印もなく、 人家ニ到着セントスル、右手ニ桑畑則チ大字山那字宮東ノ切八百六十番 Ш 畝二十四歩ノ地ハ古来俗ニ『地蔵畑』 那小渕薬師堂を出て今度は小渕江南線を真っ直ぐに扶桑駅に向かって ササラ塚のある南山名を通る。 現在の山名小学校西二百メートルあたりがその 人家が点在する薮と畑ばかりの地であり、 南山名もキリシタン処刑地があった ト称ス。此ノ地亦宗徒ヲ切リ込 学校ヨリ西行二丁程シテ字小渕 また南山 どこ



臨済宗正覚寺 1667 年 (寛文 7) のキリシタン切込地



臨済宗妙心寺派多福山顕寶寺 寛文七年のキリシタン切込地

ある。 移したと伝えられているが住職に尋ねても詳しくは分からない 境内の南の広場が一六六七年(寛文七)の切込み地と伝えられる。 寺臨済宗妙心寺派の禅寺となっている。 たりが処刑地であったのかとたたずむことしばし。ササラ墓石碑をここに 県文化財に指定された平安初期の作とされる鋳造誕生仏立像を見学する。 地にあり、 たすぐ東側にある寺であった。「顕宝寺」は大字南山名字高塚十二・十六番 薬師寺を出て十五分程で顕宝寺に到着する。イオン扶桑店の道路を隔て 創建は七百年前で当初は浄土宗の寺であったが、 一六六七年(寛文七)のキリシタン切込み地と伝えられる寺で 一九七九年(昭和五十四) 現在は多福山 (地図20)。 に愛知 このあ 頭寶

当たらない。正覚寺は県道小渕・江南線沿いにあった。寺伝によると、 済宗の禅寺で、創立は詳らかでないが往古は真言宗に属する医王山正覚寺 の写真が掲載され、 のあったあたりを通り抜けているはずだが『切支丹資料』 顕宝寺とイオン扶桑店の間の斎藤 自転車なら五分程度である。途中、 このあたりにあったとされるが、今はもうその姿も見 ・羽黒線を南に下ると、「正覚寺」に やはり処刑地だった折橋薬師堂 には、 火の 見櫓 臨



浄土宗解脱山専修院 キリシタン処刑地



正覚寺の堂裏にある 舟形地蔵群

地と推測される(地図26)。 掘り斬首者を落とし込んだという。堂裏には多数の舟形地蔵尊がある。 の地に「折橋薬師堂」が存在していたと伝えられ、 となった。一六六七年(寛文七)の切込み地で、 再興した。 という巨刹。大火で荒廃した後一五○九年(永正六)臨済宗の友峰和尚が 一五八四年(天正十二)には小牧・長久手の戦いで焼失し廃寺 境内の一隅に大きな穴を これは現在の公民館敷

できる。いずれもキリシタン処刑地である。 差点で右に曲がれば柏森「専修院」へ、左に曲がると恵心庵へ行くことが 正覚寺からさらに斎藤・羽黒線を進み、 一宮・犬山線と交わる柏森の交

近い。 号線) 柏森の信号より南三つ目の柏森郷西の信号を東に入ったところであ 修院東門を見つけることができる。車で行けば県道一宮・犬山線 (六十四 たあたりから左手に注意していると、扶桑町文化財に指定されている専 柏森・専修院には別の日に行ったが、ここは名鉄柏森駅から徒歩六分と 柏森神社に向かって歩き、 コミュニティ広場の角を入り、 通り過ぎ



扶桑町殉教者遺跡「恵心庵」

扶桑町「恵心庵」案内地図

改称して一大伽藍が建立された。 る く境内一帯を散策すれば心休まる寺院である(地図25)。 道寺であり一二八四年 一尺七分の石地蔵が一体ある。この解脱山専修院は、 寛永年間および一六六七年(寛文七)の切込み地で、 先祖兼松正吉墓の前あたりが処刑場跡と言われる。 (弘安七)頃浄土宗に転宗、 現在も壮大な伽藍が建っていて木陰も多 寺号を解脱山専修院と もと真言宗竜雲山大 本堂前の広場の 小堂内には高さ

庵 もに現在も町の人々により毎月の慰霊が行われている。 の北隣地に住んでいる田島家の先祖が建立したものであり、 いわれ、まさに殉教者が埋葬された遺跡である。ここの顕彰石柱は恵心庵 木村のキリシタン殉教地である。庵の周辺を掘れば今でも遺骨が出るとも 扶桑駅から線路沿いに南へ自転車で五、六分行くと旧道に面して があった。 この恵心庵は村内住民の大半が捕らえられて、 庵は扶桑町文化財 顕彰石柱とと 処刑した高 「恵心

に指定され、

大切に保存されていた。

次に向かった「長泉塚古墳」、「乱法山史蹟」

はいずれも扶桑駅から反対

長泉塚古墳にあ 長泉院はキリスト教会と伝えられる



長泉塚古墳

墳で、 まれた児童公園の中に位置している。この古墳は犬山扇状地に立地する円 の中にあるが路地に案内板が出ているので分かりやすい。 長泉塚古墳は駅から自転車でおよそ十五分、 刑地であり、 の県道を東の方に行った所にある。案内書によるといずれもキリシタン処 ンの処刑地であり、ここにかつては教会があった。七世紀前半に築かれた **一段円墳が柵に囲まれ小さな丘になっている。長泉塚古墳自体は民家に囲** 古来より村人の信仰の対象とされていた。 この乱法山の墓地にあった墓碑の多数が覚王寺に移された。 県指定文化財のためか、 古墳がある場所は各地で ここはキリシタ 民家

と伝えられる(地図27)。 と伝えられる(地図27)。 お墳右側に建っている小さな碑は「長泉院神」と刻まれた。古墳右側に建っている小さな碑は「長泉院神」と刻まれた。古墳右側に建っている小さな碑は「長泉院神」と刻まれた。 古墳右側に建っている小さな碑は「長泉院神」と刻まれた。 古墳右側に建っている小さな碑は「長泉院神」と刻まれた。 古墳右側に建っている小さな神が、

ここから乱法山に向かうが道に迷ったので、

行き先を変更

処刑地として使われており、

一六六一年~一六七二年

(寛文

ランボウ山遺跡を示す旧地図



ランボウ山遺跡 キリシタン宗徒の切込み地・屋敷跡

隠れるようにしてあり、予想していたよりも小型のものであった(地図24)。 然としていたが、供養塔と舟形地蔵尊は本堂に向かって左側の大木の陰に 供養塔と舟形地蔵尊がある。ちょうど庭の改修工事の只中で、あたりは雑 の青々とした葉の茂みに一抹の悲哀を感じる風景だった(地図28)。 た。ここで処刑された人々を偲ぶと、扶桑町保存樹のヒガンザクラの大樹 かがえた。敷地内では建物を建てることは忌み嫌われているようであっ には花が供えられており、寂しげながらもきちんと祀られていることがう リシタン屋敷跡で、三体ずつ向かい合わせに立っている六体の舟形地蔵尊 開けて、 た県道奥の北側の私有地のような細い路地に入り込むと、工場の間が急に たあげくやっと株式会社メイコウザンとセサミコーポレーションに挟まれ 高雄・覚王寺から再度乱法山を目指して県道に引き返したが、あちこち迷っ して高雄・覚王寺へと向かう。覚王寺には乱法山から移されたキリシタン 柵に囲まれ草ぼうぼうの空地に出た。ここが乱法山と呼ばれるキ

門前にある舟形地蔵尊がある。白雲寺は扶桑町高雄字米の山四十二番地に 扶桑町周辺にはもうひとつキリシタンに関する遺跡として、「白雲寺」



高雄白雲寺門前の舟形地蔵 尊像この舟形地蔵尊石仏は 元恵心庵にあった

たもので、高さ二尺七寸、「有縁無縁三界萬霊等名仏地蔵尊」の銘をもつ。 に、一六九九年(元禄十二)、造立され、白雲寺末寺恵心庵に祀られてい 域でキリシタンとして処刑された無数の村民の霊を弔いその冥福を祈る為 ある臨済宗の寺である。往古は真言宗で、創建は文武天皇の時で七○六年 この地蔵尊は文政年間白雲寺に移された。 (慶雲三)に建立された。ここは処刑地ではないが門前にある舟形地蔵尊は 一六三一年(寛永八)と一六六一年~一六七二年(寛文年間)とに近隣地

葬儀会館シオンを目標に歩いていけば、その隣が白雲寺である。 ぐのところにある。 白雲寺は名古屋方面から行くと扶桑駅から一駅の木津用水駅を降りてす 細くわかりにくい道であるため、 駅ホームから見える

江南市の殉教地を歩く

野屋敷西のキリシタン道」など、キリシタンにまつわる遺跡があるがいず 江南市には「石枕共同墓地の墓標」「江南市図書館裏の塚跡供養塔」「前



江南市立図書館北側の塚跡供養塔

野家屋敷跡とキリシタン道は、ふるさと江南歴史散策道の「蜂須賀・曼荼 図書館裏に出た所にあるさほど高くはない古木の根元の供養塔が巡礼地と てたところにある石枕共同墓地と、この神社の境内に入って右手に曲がり 羅寺コース」の中に入っており、 れも駅から遠く離れている上に、便利なレンタサイクルもない。ただ、前 石作神社神明宮自体は巡礼地ではないが、この神社から南に道を一本隔 駅からは三、四キロメートルほどである。

なっている。

支丹出候村々」と記述されていた。 枕など扶桑町斎藤近辺は一六六一年から一六七二年 を経ているためか崩れているのでよくわからないが、だいたい五基~七 の三人はキリシタンとして処刑されたと思われる。 文七)十月五日に起こった前野村での多数のキリシタン捕縛のとき、 また「寛文七年丁未(一六六七)(十月カ)五日斎藤太良左衛門・山王六兵衛 内、南側の位置にある(地図19)。 この墓石の一つには「三界萬霊」と刻まれ 石枕久兵衛」 の銘がある石碑もある。 その年号からすると一六六七年 (寛 神明社南方の石枕共同墓地には、 松永守雄の先祖代々の墓石がその敷地 図書館裏の塚跡供養塔は、長い年月 古記録には山王 (寛文年間) に • 石 切



江南市石枕町の石枕共同墓地



松永家先祖代々の三界萬霊石碑

度のところにあるが、 基はあると思われる。この供養塔や石枕共同墓地は、駅から徒歩一五分程 現在そのいわれとキリシタンの歴史を知る人はいな

くなってしまった。

寺として今日に至っている。この観音禅寺と前野天満宮社の間の狭い路地 年(文禄四)秀次事件に連座して自決した前野将右衛門長康の菩提を弔う 家臣のために棄教し、農民となり子孫永続の道を選んだ。これも武門の生 が、豊臣秀吉のキリシタン禁教令の発布や、宣教師追放のなかで、 らの武門の家系である。信長の時代にはキリスト教の信仰に深く帰依した 立てられて千本松原で処刑されたと伝えられている。前野家は平安時代か は「キリシタン道」と呼ばれ、捕縛されたキリシタン宗徒はこの道を引き は観音禅寺がある。 き方であった。『武功夜話』にいう前野家一党のうちキリシタン宗門とさ で人家が点在するだけで、目印になるようなものはなく、非常にわかりづ ここから前野家屋敷跡までは徒歩二十分ほどの距離である。周囲は畑地 (地図18)。昔からの街道沿を進むと角に前野天満宮があり、 この観音禅寺は前野氏一族の菩提寺である。 一五九五 尾張藩 西側に



「旧前野家屋敷」 (現在は吉田家)

れらはいずれも『武功夜話』を書いた前野初代庄屋孫四郎雄勝翟の子供等 れた者五名は、 歿年月日からして同時期の処刑であったと推測される。こ

前野半六室 六六七年 (寛文七) 十月十二日歿 であった。

前野千代 六六七年 (寛文七) 十月十二日歿

前野おなあ 吉田長左衛門 一六六七年(寛文七)五月二十九日歿 六六七年 (寛文七) 十月十二日歿

長左衛門女房 一六六七年(寛文七)十月五日歿

以上の五名は「吉利支丹御詮議、 宗門により召捕はれ御仕置き成る」と

記述されている。

千本松原 (栄國寺) 殉教者の中で、唯一その名が古文書に記載されている人々である。 シタン道と言われている処を通り、石枕村を経て尾張藩の処刑場であった 庵主に聞くと、その後彼らは前野家屋敷西方、観音寺と天満社の間のキリ の地で斬首された。この五名は千本松原で処刑された



観音寺と天満社の間「キリシタン道」

一宮市の殉教地を歩く

された国道があり、 分の一本道だが、印田から浅野公園までは約二十分かかるうえ新しく拡幅 塚にいたる道順が考えられる。東一宮のバス停から印田までは徒歩で約十 八剣社から一本松塚キリシタン処刑場址と常光寺を経て浅野公園なぐさめ 宮の巡礼ルートとして、JR一宮駅または名鉄新 旧街道の面影は消えていて道筋が少々分かりづらい。 宮駅から近い順に、

セウ」と彫られているが、「センテンセ」の方はもう既に判読不能となっ 号干支の五文字を鑿で削り右側には「センテンセ」背面下部には「クルタ ものであるといわれている。裏側に「弘長三癸亥二月九日」と彫られた年 と彫られた石碑があり、それが火炙りによって殉教したキリシタンを偲ぶ 鳥居がありその奥に小さな祠がある。 という看板がある。鳥居をくぐると正面の階段を上がったところにさらに 地に入るとすぐに見つけられる小さな社で、鳥居の横には「空円講会所_ 八剣社は東一宮の停留所からNTTビルを目指して進み、その裏側の路 祠に向かって左側に「開祖空圓上人」



八剣社の「開祖空円上人碑」碑面横には 「センテンセ」・「クロタセウ」の文字



一宮市大江三丁目の花園鎮守八剣社

たれ、 した時には鮮明に読み取れたことを思うと、残っている文字の風化を食 残したものだとされている。 火刑に処せられたキリシタン宗徒の信仰と禁圧に対する強い反抗を書き ている。これはポルトガル語で「判決宣告」、「磔・火炙り」を意味し、 い止めなければという気持になる(地図31)。 処刑されたキリシタンの霊を弔っている。二十年ほど前に巡礼を 地元では現在でも空圓講と称して集会がも

の小道に出る。 い路地を真っ直ぐに進む。約十分も経たないうちに建て直されたお寺脇 へ行くことができる。まず、常光寺へ行くには株式会社「水上」角の狭 て右側の歩道からは「常光寺」へ、左側の歩道からは「水掛け十字碑 バス通りに出て十分ほど歩くと印田のバス停に着く。岩倉方面 左側の短い参道の奥の祠には水掛地蔵尊がある。 に向 か

た宗徒達を慰めるため水を掛けるのだといわれている。私も水を掛けて 安置している。右上には「為二世安楽也」との銘があり、火あぶりになっ 本松塚(現在の緑二丁目十二)にあったものを、この郷中印田に移設し、 この地蔵尊は一七五一年~一七六三年 (宝暦年間) 印 日郷裏 ・常光



小洞にある「水掛地蔵尊」

手を合わせた。

ず加納石材店を探す。 たといわれる。 たどり着くことができない。この地には明治まで一本松の大木が立ってい がある。ここは黒姫龍神社というらしいが、そう聞いて探してもなかなか バス通りに戻って今度は反対側に渡り、さらにもう一本裏の道に出、 その横にある小さな鳥居の奥の祠に「水掛け十字碑」 ま

郎、一宮の医師コスモ道閑、レオン庄五郎の四人が火炙りの極刑に処せら に処せられた場所といわれる。 れた。「印田郷裏常光一本松塚」は尾張藩で初めてキリシタンが火あぶり のうち一宮のポール兵右衛門、その子である高木村のシモン・コスモ久三 一六三一年(寛永八)尾張藩ではキリシタン宗徒五十七名を捕らえ、そ

念碑と石彫りの小碑「水掛地蔵尊」が建てられた。 店で造られたといわれ、 木の立札が建てられ、一九六九年(昭和四十四)には地元の人々により記 九五〇年(昭和二十五)、カトリック名古屋教区によって十字架型の またその縁で名古屋栄國寺の顕彰碑もこの石材店 碑は西隣地 \bar{o} 加 納



「キリシタン水かけ地蔵尊碑」 一本松キリシタン塚

ていると聞いた。ここでも同じように水を掛けて手を合わせた。 に依頼したということである。現在でも地元の氏子連が殉教者の霊を弔っ

礼をした時には確かこのあたりにミスタードーナツがあったと思ったが、 こちにあるが、このバス通りには一休みできるよう店は見当たらなかった。 今はコンビニしか見当たらない。 ればならない。横断歩道はなく、地下道が通っている。二十年ほど前に巡 次に浅野公園を目指して歩くこと二十分、途中大きな道路を横切らなけ 一宮駅前一帯はおしゃれな喫茶店があち

は「キリシタン慰め塚」と言われている。 た殉教碑であるが、そこは手狭のため浅野公園前に設置した。この殉教碑 より一九六七年(昭和四十二)、一本松塚跡に建立するために河石で造っ の道を歩いて公園に入る手前の右手に顕彰碑がある。これが森徳 親方の朝乃若武彦の実家という話を聞いている。 浅野公園前バス停に、「あさのみそや」がある。 この 元西前頭筆頭で現若松 「あさのみそや」横 一郎氏に

ここからバスに乗り十五分弱で岩倉駅に到着する

(地図30)。



浅野公園南にある顕彰碑 「なぐさめ塚」キリシタン研 究家 森徳一郎氏建立

三河地方の史跡巡礼

の殉教者】を抜粋して紹介する。市の中学生だったYさんが母親と一緒にまとめた報告書【三河全体についても全く資料がないことから、独自に調査した豊橋者が出たとされるが資料はほとんどない。東三河キリスト教史東三河の新城市地域では一六三一年(寛永八)、に二人の殉教

三河の殉教者

田藩領)で二名の殉教者あり。」という記述があります。これが御油で五名、吉田で二名、牛久保で一名、丸山で一名、新城(吉本切支丹宗門史・下』には、一六三一年(寛永八)、「三河で五名、ほとんどいないと思われていたのですが、レオン・パジェスの『日三河ではもともとキリシタンも少なく、したがって殉教者も



森禮子 『キリシタン史の謎 を歩く』戦国武将田中吉政 については、資料3で詳述



新城は吉田藩領を示す地図 「三河国の緒藩居城・陣屋所在地」

記されており、 このことは、 ます。この時の殉教者のうちのひとりは、 今のところでは、おそらく唯一の三河での殉教者の記録ではないかと思い 吉田城主松平主殿守忠利の日記である『忠利公御日記写』に この時の殉教者のうちで唯一日本側の資料で裏付けの取れ 吉田のキリシタン、九太夫です。

る殉教者です。

時 て 衛登申候、 十二月に、「五日、 キリシタン信徒が処刑された。当地方においても「忠利日記」の寛永八年 きりしたん九太夫火あぶりにいたし候」とあるのをみれば、 はキリシタンの禁圧を強化し、寛永五年(一六二八)には、長崎で多くの 市史・第二巻』に「…慶長十八年(一六一三)の伴天連追放令以後、 辺や吉田の事情を記しており、当時の大名の身辺の動静を知ることのでき る貴重な資料です。 |鬼利日記||は一六二二~一六三二年までの十年間にわたり、 吉田領内でキリシタンの九太夫なるものを捕らえ、老中に処置を伺っ その指令によって処刑したものであろう。…」(豊橋市史・第三巻、 切支丹の儀二付而、 江戸へ切支丹注進人こし申候、 この「忠利日記」の九太夫のことについては、 江戸御年寄衆より書状被越候、 十七日、 江戸より八兵 おそらくこの 二十六日 忠利の身 『豊橋 幕府



肥後柳川真勝寺の 「田中吉政地下墳墓」 『キリシタン史の謎を歩く』 文中記事。

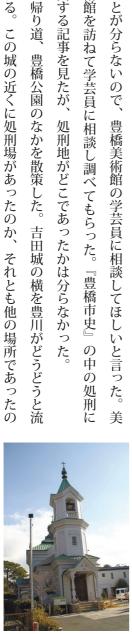
戦国武将でキリシタンと 推定される田中吉政の墓 石(戒名「桐厳道越大居 士神儀」、の銘がある) で頭頂部の四角錐の稜線 がX形をつくる「アンド レア・クルス」

九七~九八頁)と詳しく述べられています。

Ш あったという話ですが、その片山かもしれないし、またひょっとしたら豊 刑の光景ではなかったでしょうか。新城の刑場は昔、片山というところに も随分調べてみましたが、手がかりは全くつかめませんでした。 の地も、処刑方法もわかりませんが、おそらくこの九太夫と同じような処 中火あぶりにされたことが伺えます。その他の殉教者たちは名前も、 「忠利日記」によれば、この日は雨が降っていたとも記されており、 の河原で処刑をされたのかもしれないとも思います。このことについて 殉教 雨の

術館を訪ねて学芸員に相談し調べてもらった。『豊橋市史』の中の処刑に 関する記事を見たが、処刑地がどこであったかは分らなかった。 ことが分らないので、 ある豊橋公園管理事務室の職員に処刑地を尋ねる。職員は自分には詳しい この九太夫の処刑地を探しに吉田宿(現・豊橋市)を訪れた。吉田城の 豊橋美術館の学芸員に相談してほしいと言った。美

れる。



ロシア正教聖堂



豊橋市公園の吉田城址

堂である。 ていた。これは明治の初期この地でいち早くキリストの教えを布教した聖 か思いを巡らせた。公園を出ると直にロシア正教の歴史ある聖堂がそびえ

東浦町越境寺のキリシタン灯籠を歩く

がしうら一番の商店」に選ばれたとのこと。その推薦理由は「コロッケが 渡る。お嬢坂を上がる角に、「鳥吉鶏肉店」がある。この店は二〇一一年の「ひ がら坂を登った。食べ終わった頃に越境寺に到着した。 おいしい」と書いてあるので、思わず揚げたてのコロッケを買って食べな 寺がある。 ·R武豊線の緒川駅で下車、西に十分ぐらい歩いたところに越境(オキョ 駅から国道三六六号線緒川駅西の交差点を越え更に旧道を

蓮宗のお寺である。境内に入り、寺の裏に設置されているキリシタン灯籠 に対面した。この灯籠は、東浦町郷土資料館「うのはな館」発行の『改訂 このお寺は「顕本法華宗越境寺」といい曹洞宗が多い知多には珍しい日



八角形の笠と十字紋の火袋

版 説明には 十字形の穴をあけ、中の火袋に灯を入れると十字架の光が照らし出される 上に八角形のなだらかな曲線をもつ笠が乗り、天にく。 竿の上部前後に ようになっています。」とあった。 東浦歴史散歩』の表紙に描かれている。東浦町指定文化財にされていて、 「隠れキリシタンが礼拝の対象とした灯籠と伝えられています。

半島でも知られ、 があるのだろうか。今後の調査としたい。 とある。越境寺のキリシタン灯籠と如意寺のマリア観音には何らかの関連 ではキリシタンの騒動は伝えられていませんが、マリア観音の信仰は知多 の組織を設け、五人組の連帯責任で禁制の徹底をはかりました。佐布里村 スト教信徒を弾圧し厳重な宗門改めを行いました。そのため村内に五人組 たっている。 の通称、 緒川から一山越えると佐布里に出る。 山弘法の一隅には他の地蔵と共にマリア地蔵と思われる灯籠が 知多市誌には「かつて徳川幕府は、 各地に隠れキリシタンがあったことがうかがわれます。」 知多市佐布里如意寺の正法院東南 キリスト教を禁し、 キリ

名古屋市近郊の史跡巡礼

尾張二代藩主光友生母の菩提寺大森寺を歩く

けた。 容な姿勢を示し、栄國寺や八事興正寺建立に尽力したことで知られていた。 しかしその生母歓喜院の墓が名古屋近郊にあるということを知り早速出か 尾張藩主光友についてはキリスト教禁制の時代、信徒の迫害に対して寛

柱が目に入る。名古屋の近郊ではあるが広大な敷地と鬱蒼とした森の中に 閣があり、 庫裏の軒先には徳川家の葵紋が入った破風飾りが見られ、寺の格式が偲ば ある寺で、山門入口周りには人影はなく、案内板を見て中に入る。本堂や を上がると右手に「尾張藩主瑞龍院公御生母菩提寺」と刻まれた大きな石 瀬戸街道で馴染みのある道筋であるが、沿道には広大な敷地をもつ神社仏 森駅前は、近くの金城学院に通う女子大生で賑やかである。駅の北側は旧 二〇一〇年十一月、秋の紅葉はまだ早い時期であったが、名鉄瀬戸線大 静かな佇まいの中に立派な門構えの「大森寺」があった。 石段



守山区大森の「大森寺」 二代目藩主光友公生母の 菩提寺

れる。案内を請おうとしたが応答はなかった。

教育委員会」とある。 興旧山歓喜院大森寺と改めた。裏山の墓地に歓喜院の墓がある。名古屋市 (一六六一)この地に移して諸堂宇を整え、信誉上人を開山とし、寺号も 文京区)の伝通院内に創建した浄土宗の寺院で歓喜院と号した。寛文元年 (いぬい)の方の(法号歓喜院)の菩提を弔うため、江戸小石川 案内板には「寛永十四年(一六三七)尾張二代藩主光友公が、 (東京都 生母乾

光友は自分の身近に墓を置きたく、江戸小石川の伝通院からここに移し、 上を配慮しての事であろうと思うと、これも殉教地の歴史を尋ねる巡礼と 大森寺を創建したのであり、その心情は親の藩主義直の側室としての身の 林紅春大禅定尼」と読めた。ここに光友の御生母が弔われていたのである。 目に入る。 と石垣に囲まれ、まだ新しい大施餓鬼会の卒塔婆が立つ、格式ある墓石が 石群の奥まった所に一段と高く土盛りされた墓地があった。二基の石灯籠 る。本堂の木柵の外周を暫く登り、北側の墓地にたどり着いた。古びた墓 案内板に書かれていた、 台座の銘文を確認すると、「寛永十二年二月十二日歓喜院殿花 生母歓喜院の菩提を弔った墓を探して山内に入



瑞龍公御生母歓喜院墓所

名古屋市内の殉教史跡巡礼

キリシタン史跡公園を訪ねて

くと栄國寺に着く。真新しい山門を入ると敷地内にある幼稚園児の元気な 出口を西に向かう。下茶屋町信号角にある古渡城址を通ぬけ、しばらくい キリシタン史跡公園がある「栄國寺」を訪ねて地下鉄名城線東別駅4番

声が聞える。

たとき、先代住職若松啓雅師から史跡公園の構想をお伺いしたことが思い リシタン史跡公園として整備された場所である。二○○六年、お寺に伺っ 境内本堂の南側に「切支丹塚」と書かれた小さな案内板入口の先が、キ

殉教者祭

出される。当時、供養塔の建つこの場所は、高層ビルと樹木に囲まれ日陰 また南側には駐車場が設けられ、車での訪問者への配慮がはかられている。 ぐり広場と併せ、市道に面した明るく広い史跡公園として生まれ変わった。 面影は見られなかった。若松啓雅師による整備で、敷地東側の市公園どん ヒイラギの古木があった。しかし、かつての尾張藩刑場千本松原殉教地の の暗い場所で、多くの延命地蔵尊に囲まれた町岡新兵衛建立の供養塔や、

を行っている。 リック信者たちと共にミサを捧げ、この地に眠る殉教者たちの慰霊と顕彰 前では、 毎年二月の第一土曜日にカトリック名古屋教区長が多くのカト

若松啓雅師のお許しにより、カトリック名古屋教区が建立した顕彰碑の

こられたご住職の遺徳が偲ばれる。 キリシタン殉教者を祀るこの地に佇むと、史跡の維持、 保存に尽力して

八事興正寺のキリシタン灯籠を探して



主式 野村純一司教

現地確認をした。灯籠は興正寺本堂奥の普門園北、 二〇一〇年(平成二十二)十月七日、 興正寺職員の案内を受けて、 耕雲亭の庭園西口横 再度

大書院北側の竹林に移設されていた。

寺西山 期の長崎浦上のキリシタン流配事件により、尾張藩の牢舎で死去し、 数多くの藩士、名士の墓碑が並んでいる寺である。光友はキリシタンに対 高野山」とも称されている名刹であり、二代藩主を初め代々藩主の墓碑や 冥福を祈り、 が自身の所縁の寺に灯籠を持ち込んだかも知れない。あるいは幕末明治初 は一六八六年(貞享三)に高野山から来た天瑞円照和尚の創立した寺院で、 し温情を持って対応し、栄國寺を創建した藩主で、いつの時かわからない 一六八八年(貞享五)に尾張二代藩主光友の帰依を受けて発展し、「尾張 このキリシタン灯籠の由来は定かでないが、 .の普門院裏側斜面の坂道に沿った神葬墓地附近に埋葬された人々の 切支丹灯籠を持ち込んだとも考えられる。 あえて推測すれば、 興正寺 興正

浦上キリシタン牢死者の埋葬場所を探して



キリシタン灯籠

移転、 西へ徒歩数分、 に当たる。 側に誓願寺が見える。神葬墓地は誓願寺正面入口やや北よりの道路の向側 ミリーレストラン・ロイヤルホスト)を右に曲がり坂道を少し上がると左 は見あたらない。誓願寺までの順路は、 附近であろうと思われるが、神葬墓地に当初建てられていたとされる墓標 興正寺境内西方面にある観音堂の西方、名古屋市八事福祉会館の西方の山 るので、他言しないようにと言われた。かつて建築工事で露見した骨壷を のは何もない。 八事興正寺附近にあったとされる埋葬墓地を訪ねたがその痕跡を残すも 再度の埋葬に立ち会った誓願寺がある周辺は住宅地になっており、 興正寺山門に至り、 寺側から、埋葬遺骨露見の件は住民感情を損なう恐れがあ 山門から西へ約百メートルの角 地下鉄八事駅下車、一番出口から (ファ

美濃地方のキリシタン殉教史跡巡礼



可児市塩の甘露寺硯石遺跡を歩く

といわれる。 あった際、役人が調書作成のために自然石を打ち欠いて硯代わりに使った タン出の村であった。 われた。一六三八年(寛永十五)には、 まった。 七〇三年 六一三年 塩村 (寛永・寛文・元禄年間) (慶長十八) (旧春里村) 甘露寺の「硯石」 家康が禁教令を出して以来キリシタン弾圧は強 への弾圧は特にひどかったようで一六二四 に度々の過酷な取調べや検挙が行な は、 旧可児郡内の三十三ヶ村がキリシ 坂戸地内の山林で取り調べが

児セラミック)の工場入口附近となっている。 裾を造成するまでは雑木林であったが、 足でける等の苛酷な調べが一昼夜にわたって続けられた。 この地に引き連れ、 こは村境の山林 処刑が行われたのは俗称岡田場又は墨田の (可児町坂戸柿ノ木田九二二番地)で、キリシタン宗徒を 両手両足をひろげさせて「大の字」形とし、竹で叩く、 現在はNTKセラミック㈱ 「大の字処刑場」である。 現場は、 近年山 (旧可 そ



向田河原の処刑場跡位置図 可児市塩向田 1258 の 1

れ草が生えており場所を特定できない。「キリシタン塚」は、現地の「ハー ということであった。 「向田」 を探索した。 いる。美濃加茂教会の神父と信徒の案内で、甘露寺の北にある可児川河原 社跡より約十五間の北西、 ると言われる。「キリシタン塚」は、 トフル春里ビル」東側道路と田圃地のあたりと推定される。 また、 はさらに東の方にある新道の可児川に掛かる「二の井大橋」の東 信徒を斬刑にして穴に埋めた「キリシタン塚」 地元の人に尋ねると、今いる場所は「八反田」という地名で、 現地に行ってみると、 向田河原の約四坪くらいの穴跡であるとされて 可児町塩向田 現在は水田となり封土は削ら 一二五八の 跡が向 囲 河 一原にあ 旧 八幡

子孫たちは冥加金二十両を差出し村人との付き合いを許されていたが、 塩村キリシタンの子孫の中で七歳以下の子どもを仏教徒に転向、 びキリシタンの寺」と言われる。 せるよう方策を講じたところ。一八五四年(嘉永六)、塩村キリシタンの 旧 街道を戻り、 何度も訪れた甘露寺に向かった。 東側は新田又はキリシタン屋敷と云い、 「甘露寺」は別名 帰依さ



甘露寺のキリシタン遺物「硯石」 可児市教育委員会指定有形文化財



向田河原の処刑場跡 キリシタン塚遠望 2011 年撮影

教育委員会により市指定有形文化財として看板が立てられた。 多治見教会による慰霊祭が行なわれた。 に移された。ここで一九五五年(昭和三十)五月八日、 れる「硯石」は一九五二年(昭和二十七)五月、 の歴史がある。坂戸地内の山林で取り調べがあった際に使われたと伝えら 八八七年(明治二十)頃、村人の差別により転出したという悲しい迫害 一九八七年(昭和六十二) 塩組の奉仕で甘露寺境内 地元とカトリック 可児市

笠松の殉教史跡を歩く

うってつけの町である。ただ、食べ物に関してはこれといったものがない。 となつかしくあたたかく心和む雰囲気に包まれる。ぶらぶらと歩くには に移るまでの美濃の天領支配の拠点であり、歴史が残る町である。 郡代が置かれていた。ここは一八七三年 家並みが特にレトロであるわけでもないのに、江戸時代にはこの地に美濃 最寄りの駅は名鉄竹鼻線西笠松駅。ここを下りれば、ぐるりと取り巻く (明治六)に岐阜県庁舎が岐阜市 不思議



善光寺に移されたし石碑2基 「南無阿彌陀佛」 「南無妙法蓮華経」

笠松競馬にちなんだ蹄鉄クッキーと笠松しこらん、これは太閤秀吉命名の かけたときにはまだ販売されてなかった。 お菓子であり長く途絶えていたものを復活させたということだが、私が出

地蔵、 下新町四十二番地の善光寺である。 を曲がり、カジロという理髪店の角を曲がって少し歩くと、笠松陣屋跡が たりして楽しめる。三つ目の角ではなく、もう少し足を進めて四つ目の角 善光寺の案内が出ている。山門を入ってすぐ左手に、由来の書かれた柱 道なりに真っ直ぐ進み、二つ目の角を左に入る。ただしここは裏口に当た ある。また笠松陣屋の牢屋もあって罪人の処刑を行ったのが現在の笠松町 の旧街道には昔ながらの造りの商家があり、鮎酢街道なる立札が立ってい るので、正面から入るには三つ目の角を左に入り、路地を二つ越えた先に まず「笠松善光寺」は、西笠松駅を町立笠松小学校側の出口に降りて、 仏像、石塔、大臼塚跡から移設した石碑が建っている。この山門前



笠松の木曽川河原大臼塚跡

年

処刑場「藤掛村嫁カ淵」(柳原処刑場)があった。一六二四年~一六七二

(寛永~寛文年間) に多くのキリシタンが処刑されてここに埋められた

現在木曽川河川敷となっている田代 (でんだい) には、かつて極悪人の

四角柱のそれぞれの面には「史跡 広場」のグラウンド・ゴルフ場の只中に「大臼塚跡」を示す柱が立っている。 は、一八七〇年(明治三)四世恵教尼が下新町の善光寺境内に移したとい て公園となっており、屋台が出てにぎやかだった。 の由来が書かれている。私が行った時には河川敷は市民の憩いの場所とし らは遠い。木曽川にかかる木曽川橋の南側の河川敷にある「ふれあいの里 われる。キリシタンはここで判決を受けたのだろうか。大臼塚は善光寺か 大臼塚跡に建てられていた「南無阿弥陀仏」と「南無妙法蓮華経」 ことから、ここは「大臼(デウス=天主)塚」と呼ばれた。寺伝によると、 大臼塚跡」「平成元年七月六日」と塚 の石碑

可児市御嵩のキリシタン遺物を訪ねて

る。 の間に、 御嵩町の中心には八一五年(弘仁六)創建とされる元興寺と御嵩本陣と 今回の巡礼はここから国道二十一号線に沿って更に東進した小原地区 一階が図書館、 二階が郷土資料館になっている「みたけ館」があ

の山間だ。

出された。手に取って見ると、表面はさすり磨かれて、まろやかになって と、「今日は私一人が留守番をしてしますが、よろしければどうぞ」といっ 上の七御前を始め中山道沿いのキリシタン遺跡を調べている旨を伝える ると、林氏の地声が大きかったのか、木村氏の奥さんが出てこられ、この いたが、まぎれもなくマリア像が浮かんでいた。 いというので出かけた。木村茂美宅の門の脇にある句碑の前で話をしてい た。句友の林且美氏が、師の橋本鶏二の句碑が御嵩にあるから行ってみた 木村家所蔵のマリア観音像二体を手にしたのは全くの偶然からであっ 仏間に案内し、仏壇の奥から十センチほどの二体の石の観音像を取り

御嵩町七御前遺跡を歩く

の道路工事の際、五輪塔の下から石に刻まれた十字架など三点が発掘され のは、一九八一年(昭和五十六)三月二十一日に上之郷謡坂(うとうざか) これまで伝承も記録も無かった御嵩町にキリシタンがいたことが判った



水神碑

建てられ、毎年八月十五日には平和祈年祭が行なわれている。 常設展示されている。 は御嵩町観光協会により「七御前キリシタン信仰」の案内板やマリア像が るのは、 たキリシタンが存在したことが証しされた。なお現在、 とは無縁と思われていた御嵩町にも、 な古跡か判らないと記されていた。ここの遺物の発見により、キリシタン いては、 と唄を謡って通ったところから名付けられたと言う。「七御前墓地」につ たことによる。謡坂は中山道のなかでも登りのきつい坂で疲れを忘れよう 『新撰 水神碑のみで、その他の遺物はすべて「中山道みたけ館」二階に 尾張書物奉行により一七五六年(宝暦六)に書かれた 美濃誌』にも、古くから五輪の塔が祀られているが、 また「七御前遺跡」(上之郷謡坂稲葉五二四七番地) 弾圧のさなか信仰を守って生き続け 木村家に残ってい どのよう 『濃陽略

幸福寺と卒塔婆「絶仏」の文字

幸福寺の石碑があると知り訪ねた。七御前墓地の谷向こうの山と聞いてい 二〇一〇年十二月二十七日、 御嵩の「七御前墓地遺跡」の近くの山林に



御嵩町 「七御前遺跡」 と 「幸福寺』 案内地図

たが、 程して、山頂の釈迦堂といわれた跡地に辿りついた。 そうこうするうちに、近くで竹を伐採する音が聞え、近づくと地元の農家 そこで、二千五百分の一の地図を頼りに周辺の山を探索した。 間取った。以前に三重県の山中で測量をした経験が役立ったのか、三十分 さっそく潅木に覆われた山裾から登り始めた。が、ケモノ道ひとつなく手 たと教えてくれた。いつもの遺跡探し七つ道具を入れたリュックを背負い、 感謝した。農家の人は、卒塔婆の存在は知らないが、山頂に「釈迦堂」があっ の人が作業をしていた。まったくの山中で人を見かけたのは神の導きかと の畑地の周りには、 図を眺めているとはいえ、 地元の郷土誌には卒塔婆の写真があるのみで、場所は不明である。 猪除けの電線が張り巡らされ、 現地につくと地形はどこも同じで迷った。 山に登る入口もない。 日頃から地 山辺

銘文を確かめてみると、確かに「南無阿弥絶仏」と銘記されていた。 奥に釈迦堂の跡らしき基壇があった。その周辺には、今は放置されている 石仏が散乱しており、 その場所は三百坪ほどの平坦地で、 そこは山頂かと思ったが、 数基の地蔵仏と並んで目指す卒塔婆が立っていた。 更に山が背後に続く尾根であった。 一メートルほどの高さがある石垣の 側面



「南無阿弥絶仏」の銘文



幸福寺(釈迦堂)の夜念仏供養塔

す歴史の遺物であると確信した。 には「夜念仏供養」「同行拾二人正」とあり、これはキリシタン存在を残

に出た。そこは中山道「一呑み清水」遺跡のある道中の休憩所であった。 を飛び越え農道に出ることができた。山の場所を再確認しながら旧中山道 のあるところを探しながら下山したので、程なく山裾にたどり着き、 南に向けてわずかに踏みしめられた参道の跡を見つけ、 小川 石段

美濃加茂市太田町のキリシタン遺物

連絡を受けて、 事中にキリシタン灯籠らしきものが見つかったので調査して貰いたいとの 勇次氏の案内で、新しくできた「円空ふるさと館」を見学したあと、 かけである。そこで『怨嗟する円空』の著者である地元の郷土史家、 四)二月、郡上市美並町の古田之子氏からの手紙で、東海北陸道の橋脚工 太田町(中山道太田宿)の「地蔵尊」に出会ったのは一九九二年(平成 当時南山大学教授の青山玄神父を伴って出かけたのがきっ 無縁 池田

墓地に移された火袋のない竿石と対面した。



井ノ上観音堂 美濃加茂市太田町北三

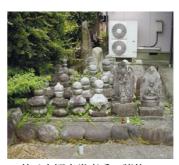
光家墓地の一郭に並んで置かれていた。 字架を持つ陽刻があり、その下に像と同じ高さの中台に「寛延三年庚午 いる。これには袈裟掛けに首と胴が斜めに割られているが、 (一七五一)講中八人 十一月十五日」の陰刻が三行に分けて銘記されて 二十五センチ、土台高さ十五センチ、横幅三十三センチで胸に大きな十 内の共同墓地」で、元は井上観音にあったとされる地蔵石仏が移されてい た。そこは美濃加茂市役所西方の太田本町三丁目信号を北に入った「蔵之 た地蔵尊があるので見てほしいということで、地蔵のある墓地へ向かっ 不明であるが、脇侍の善女竜王と善財童子は無事であった。ついでに変わっ ながらその後、 の解説を書いている佐光篤氏の案内で井上観音の円空仏を拝観した。 田駅鉄道工事の際に移されたものである その後、美濃加茂市の太田町に寄り、郷土史家で『美濃加茂の円空仏』 舟形地蔵坐像は全高七十八センチ、像と中台とで六十三センチ、 三尊形式をとる中央の十一面観音は盗難に遭い未だに行方 一九二二年(大正十一)の美濃太 (地図34)。 修復されて佐 横幅 残念



利支丹宗徒が多数ある故召捕らえられよ」とあり、また一六六五年

六六一年(寛文一)二月の『殿中日記』に「美濃国塩村、

美濃太田蔵内共同墓 地のキリシタン遺物



‡ノ上観音堂裏手の諸仏

<u>Fi</u> 村」とあるから、太田にもキリシタンがいたことが推定できる。 の「尾州にて吉利支丹出候村之覚帳」に「石原、太田村、土田村〆八カ

ていたのではと思う。 徒の霊を慰めんと胸に十字架を刻み、残された村人が建立し、密かに弔っ キリシタン弾圧の嵐が静まった頃の寛延年間、処刑されたキリシタン宗

郡上市美並村のキリシタン遺物を探して

自動車道が完成した現在は、 受け青山玄神父を伴って調査に出向いたのは一九九二年(平成四)二月六 土台の上に安置されている。 日のことであった。この時、 らしきものがパワーショベルで掘り出された、との連絡を古田之子氏から 流大原川の三の渡りで、東海北陸自動車道の橋脚工事中に織部灯籠の竿石 一九九一年(平成三)十一月二十二日、大矢の集落を流れる長良川の支 堀出された元の山中に戻されコンクリートの 石柱は大矢地区の共同墓地に移されていた。

ı

られる。その一人に郡上城主であった稲葉備中守通則がいる。六男良道は は、江戸初期にここまで運ぶにはかなりの資力のある有力者の存在が考え チ。石質は花崗岩。発見当時、現場周辺を調べても火袋の部分の残欠など 厚さ二十一・五センチ。膨らみ下の高さ五十一センチ、横幅二十一・五セン い。石柱の花崗岩が郡内では産出されない種類のものであることについて ころの本尊は丁頭切支丹といふ。丁頭はでいうすの名乗り・・・」とある。 の中に「非田宗、不受不施、切支丹、三品ともに一流なり、彼等の尊ぶと とも考えられるが、倉敷市の弘泉寺から出た「慶長八年癸卯二月の禁令掟 込みがないことについては、これだけで完結したもので礼拝用ではないか 無いことと、石室の花崗岩は郡内では産出されないことが判明した。 の浮き彫りがあるが、通常の織部灯籠に見られる火袋を載せる彫り込みが 子に)の頭文字を図案化したものと思われる。脚の部分には合掌下人物像 は見つからなかった。膨らみ部分の線彫りはP(Patri 父に)とF(Filio 入信して一鉄と号していた。良道の子貞道は一五八八年(天正十六)に八 幕府方の文書に、T十字型がデウス(神)と見なされていたのは興味深 全高七十六・五センチ、横の膨らみ幅二十九センチ、高さ二十五センチ、 彫り



郡上市美並村の キリシタン遺跡

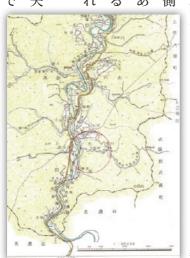
幡城主となり関ヶ原合戦後には豊後臼杵に転封されている。

告る武将であると同時に、茶の湯で有名な人物で、彼が考案した かどうかは定かでない。 族といわれる。この清信の従兄弟に古田織部がおり、織部正は重能と名 この貞道に仕えた武士の中に古田清信がいる。その末裔が美並村の古田 が一般に「キリシタン燈籠」といわれるが、彼がキリシタンであった 「織部灯

後守と山田庄左衛門、 美濃における最初の受洗者は、 いずれも土岐頼芸の家来が洗礼を授けられている。 一五六〇年(永禄三)のことで、 小池備

近であり、高山右近とも親交があった。そして織部正と同族であ 織部正の父正重は土岐頼芸に仕えていた。織部正は織田信長の側 ことから、この地方にも多くのキリシタンがいたことが推定され る古田氏が仕えた稲葉氏の中からキリスト教の受洗者が出ている

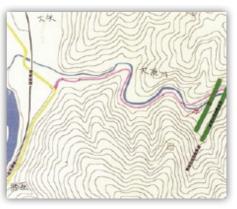
人の案内で大原川の三の渡りに赴いた。林道が狭いということで 二〇一〇年(平成二十二)十月二十七日、再調査のため古田夫 る。



美並村地図

ければならない。川幅は五メートルほどであるが大きな丸石がごろごろし 然な傾斜地で河原へ下りられたが、 裾では、小道に沿って点在する墓群の途切れた一番奥まったところ、 場所がその名の由来という。「三の渡り」から「一の渡り」にかけての山 軽ワゴン車に撮影機材と長靴を移す。大矢の集落を通り田圃道を抜け三、 ていて流れも思ったより速い。長靴の半分以上を水中に沈めながら滑らな ル近い垂直のコンクリート壁に埋め込まれたハシゴにつまりながら下りな も道をはずれて谷の反対側の斜面の林の中から石柱が出土した。以前は自 「三の渡り」で車を寄せた。 四軒の家を後にして林道に入ると、 いように浅瀬を探して渡渉する。水は清冽であった。 昔は橋も無く岩を飛び石代わりにして渡った 自動車道が完成した現在では四メート 軽自動車でも道幅一杯の細道である。 それ

ほぼ彫られたままの原形を留めていると思われる。郡上で初めてのキリシ るものの土に埋もれていたため、コケ類の付着も風雨による磨耗もなく、 あった。竿石はパワーシャベルで引っ掛けられた時の小さな瑕が二ヶ所あ られその上に花崗岩の石柱が安置されていた。二十年近く経ての再会で Ш の斜面をしばらく登ると、 橋脚近くの斜面にコンクリートの土台が造



美並村キリシタン遺跡拡大地図

表したい。林道に戻り、振り返って見たが草や木に隠れて石柱の姿を見る されて、遺跡としても保存されることとなったことに、心より感謝の意を タン遺物である。また、地元の有志の方々のご厚意と協力により現状復帰 ことはできなかった。 自動車の騒音が上から降ってくる。

あってもしっかりと立っていて欲しいと願いつつ大原川を後にした。 た今、これからは地中ではなく独り隠れキリシタンのように密かにでは 今後はもうここを訪れる人はいないかもしれない。他の無縁仏と離され

木曽路のキリシタン遺跡「妙覚寺マリア観音」

立ち寄ることにした。大桑村は城主土岐頼芸が上洛した時、家臣がキリス ませた。木曽街道野尻宿と須原宿の中間、木曽川左岸の小高い山腹に「妙 ト教教理問答を持ち帰ったと伝えられており、何か期待できるかと心はず いるが、キリシタンと関係があるか否か調べてほしいと言われていたので ねてから木曽の大桑村出身の友人から、地元に「マリア観音」が祀られて 二〇〇八年十一月十二日、木曽福島に所要があり車で出かけた。 帰路か



木曽路野尻宿妙覚寺の 「マリア観音」石仏

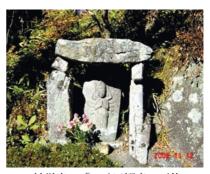
思い夕日の中を帰途に着いた。 明であるが、キリシタンの迫害を乗り越えてきたのなら、美濃方面の宣教 覚寺」はあった。この寺は、臨済宗妙心寺派に属する古刹で、手入れの行 の歴史が判明することを期待しつつ、これからも大切に守って行きたいと 山天長院には「マリア地蔵」が門前に安置されていた。これらの由緒は不 と十字架が掲げられていた。これは野尻川向にあったものを、一九七一年 の話に聞いていた通り、観音石仏は千手観音の姿で、右手の一本には、高々 に自然石で覆われた小洞があり、そこにマリア観音が祀られていた。友人 の案内立て看板に従って、裏庭に回った。枯れ山水の庭を眺める小道の脇 木曽の山奥で壮大な寺院建築に出会ったことに歴史の流れを感じる。 き届いた庭園の樹木に囲まれ、 〔昭和四十六〕に現在の場所に安置されたものだという。 山門周辺は凛とした佇まいをみせていた。 また近くの地久 門前

木曽路奈良井宿の「マリア地蔵尊」

二〇一一年十月十六日、犬山城白帝文庫の歴史研究会のメンバーと木曽



地久山天長院門前の マリ ア地蔵



ア観音』 マリ 石仏

路・奈良井宿を訪れた。今年はこれで二度目である。木曽十一宿中、奈良 井宿は鳥居峠の北、 て街中にある「大宝寺」を訪れた。寺のお庫裏さんらしき人の留守番に拝 いる。伝統的な建物の町並みを観光する目的であったが、 見せているが、江戸時代ここにもキリシタン宗徒の悲しい話が伝えられて 山懐に抱かれた宿駅で、今では観光地として賑わいを 途中で切り上げ

子供は破壊されていた。小洞の前には由緒を標した看板が立てられていた。 ている石仏にはどうしたことか頭部がない。 安置されているマリア地蔵を拝みに来たのである。小洞の中に安置され 胸に十字架が残っていたが、

観料百円を払い、庭の奥の山陰の小洞に着いた。

臨済宗妙心寺派 大宝禅寺

領主であった。天正十年木曽義昌が武田勝頼の軍と鳥居峠で戦ったとき、 山大安和尚のために建てた寺である。義高公は木曽氏の支族で、奈良井の いまから凡そ四百年前の一五八二年(天正十)奈良井治部少輔義高公が開 「この寺は広伝山大宝寺といい、臨済宗妙心寺派に属する禅寺である。



奈良井宿のマリア地蔵尊

没し、法名を広伝寺殿 . 翁宗 . 大禅定門といい、墓所は寺内にある。寺名 義高公はおおいに武勲をあげた武将であった。一五九○年(天正十八)に

も当時は広伝寺といった。

のみである。」(大宝禅寺 作られた石像である。役人に発覚し、頭部も抱かれた子供もひざも破壊さ 鉄舟の扁額がある。マリア地蔵尊。「キリシタン禁制の江戸時代、 寺と改めた。なお寺宝として白隠禅師が開眼した子育地蔵尊・墨跡や山岡 であったと想像される。ただ今は隠れキリシタンの悲惨なそのかみを偲ぶ 光背を支えたあともあり、台座もあったであろうから、かなり大きなもの れて悲惨である。わずかに胸に十字架だけがのこっている。石像の背には にも秘かにキリシタンを信仰する人がいた。仏教の子育地蔵になぞらえて が寺門を修造し、一六五八年(万治元)現在の本堂を建て寺名広伝山大宝 江戸時代となり、 明暦年中に玉州禅師が中興し、福島の代官山村良豊公 案内栞より転載)。 木曽路